

2020年度
大阪経済大学 大学院

経営情報研究科 経営情報専攻 修士課程

ゼミ案内

◎教員との面談を希望する場合はHPよりお申し込みください。
日曜・祝日および大学休業日、出願期間～試験日の間は面談できません。
面談希望日に希望教員との調整が見つからない場合があります。
時間に余裕をもってお申し込みください。

◎本学入試情報サイト「大学院入試」にも本案内を掲載しております。
<http://www.osaka-ue.ac.jp/entrance/admissions/graduate/>

担当教員	浅田 拓史
テーマ	経営改革と管理会計の関係に関する経験的研究
受講についての必要な予備知識	会計の基礎的知識、実務経験があることが望ましい
評価の方法	授業への出席状況、発表・報告、レポート・論文など、総合的に評価する。
研究指導について	<p>修士論文を書くことを希望する場合は、企業における予算管理や投資意思決定などの管理会計実践やその変化を分析してもらいます。例えば、経営改革においてどのような管理会計情報がどのように使われているのかを調査したり、予算管理上の様々な問題を企業がどのように克服しているかなどを調査したりすることを通じて、最先端の経営実務を様々な理論的枠組みを用いて分析します。</p> <p>そのためには以下のことが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象企業から調査の許可を得ること。 ・調査先に対して10回程度の聞き取り調査を行うこと。 ・研究課題に関連する先行研究（主に英語の論文）を読み体系的に整理すること ・成果を研究会等で発表すること。 <p>講義では、主に各自のテーマに関連する論文の報告から始め、調査の進展に合わせて、修士論文の構成や内容に関するディスカッションを行う予定です。</p>
志願者へのメッセージ	興味のある方は一度声をかけてください。

担当教員	伊藤 博志
テーマ	中小・ベンチャー企業の新しいビジネスモデルとファイナンス手法の実証分析
受講についての必要な予備知識	近代経済学や経営学の基礎知識はもちろん、中小企業およびベンチャー企業の経営環境や経営戦略に対する基礎知識や知的探究心を前提とする。さらには会計、税務、資金調達手法などの実践的な知識があれば、より深い研究成果が期待できる。
評価の方法	報告、レポート等を勘案して評価する。
研究指導について	<p>第一年度は、中小企業、ベンチャー企業さらにはNPO法人などによるユニークな経営事例を検証しながら、その経営戦略、組織体質、ファイナンス構造などを考察する。これにより、具体的な分析対象とそれにアプローチするための分析手法、その結果導き出される仮説を自分なりに明らかにしてもらいたい。</p> <p>第二年度は修士論文の完成を目指し、考察対象とした企業の定性的・定量的なデータ処理をはじめ、関連文献の整理など論文作成の具体化(可視化)作業を進めていく。何のために(研究の意義)、何を(仮説)、どうやって(対象と分析手法)明らかにするのかという意識を常に持ち続けることが大切になる。</p> <p>したがって、入学前にある程度の知識と問題認識を持っておられるか、卒業後に修得した知識を実務的に活用する予定の方々を研究指導の対象者として考えている。</p>
志願者へのメッセージ	

担当教員	井上 晴可
テーマ	ビッグデータ、オープンデータを活用したデータ分析に関する研究
受講についての必要な予備知識	ビッグデータやオープンデータに関する基礎的な知識を有することが望ましい。
評価の方法	出席状況、レポートやその発表、論文などを総合して評価する。
研究指導について	<p>1年次は、ビッグデータ、オープンデータの活用事例やデータの分析方法などを調査し、プレゼンテーションにまとめて発表することで基礎的な知識の獲得を目指す。そして、それらの応用や既存の課題点を整理し、相談しながら各自の研究テーマを決定する。</p> <p>2年次は、各自のテーマに沿った分析方法を学び、修士論文を執筆する。</p>
志願者へのメッセージ	

担当教員	小川 正史
テーマ	ビジネスプログラミング
受講についての必要な予備知識	パソコンとインターネットに関する基礎知識と操作技術。Visual Basic, Java, C 等によるプログラミング技術。Photoshop等のフォトタッチソフトの基礎知識。
評価の方法	授業の出席状況、授業時に設定した課題、課題研究レポート・修士論文。
研究指導について	<p>企業活動をモデルに情報システムを設計し、設計したシステムをデータベースやサーバーの技術を用いて実現していく。またフォトタッチソフトやアニメーションを使用したコンテンツ作成技術について学ぶ。</p> <p>初年度前半は、研究テーマを選定し、そのテーマに関連して、プログラミング、サーバー管理、データベース等の技術について学んでいく。またコンテンツ作成のために、フォトタッチソフトやアニメーション等のマルチメディアアプリケーションについても学んでいく。</p> <p>初年度後半からは、選定したテーマにそって、プログラミング、サーバー管理、コンテンツ制作などを行う。</p> <p>二年目は、各自の選定したテーマにそって情報システムやコンテンツを完成させるとともに、それらを利用した各種実験や調査を行い、修士論文（課題研究）をまとめていく。</p>
志願者へのメッセージ	

担当教員	加藤 千雄
テーマ	資本市場と会計情報の関係に関する実証研究
受講についての必要な予備知識	企業の財務行動および財務情報が企業価値に与える影響を、実証研究の方法により分析することを目的とします。受講の必須（前提）条件ではありませんが、統計学・計量経済学のテクニックの修得と、主に英文先行文献の購読を集中的に行う予定です。
評価の方法	講義での積極的な議論への参加とレポートで各5割考慮します。
研究指導について	株式および財務情報に関する限り、数量的な分析に必要なデータは大半のものを用意できると思います。初年時に論文の検索を通じて実証可能な仮説の定立を行い、次年度は修士論文完成に向け、多面的な分析を進めていくことを目指します。
志願者へのメッセージ	

担当教員	草薨 信照
テーマ	GISを利用した社会・経済の空間分析
受講についての必要な予備知識	研究指導を希望するものは、「情報処理特論」および「空間情報処理特論」を受講すること。
評価の方法	研究の成果を総合的に評価する。
研究指導について	<p>GISとは、「地理情報システム」のことであるが、その実体は地理情報を主たる処理対象とする、総合的な空間分析ツール群である。</p> <p>空間分析が扱うのは、地球上の位置と直接または間接に関連付けられた対象物や現象に関する情報であり、その適用範囲は地球規模の環境問題から店舗の商圈分析まで幅広い。ここでは、空間と関連付けられるあらゆる情報を科学的に分析するための理論・手法・技術を習得しながら、それらを現実世界に適用した実践的な研究に取り組んでいく。</p> <p>研究課題の具体例を以下に示すが、これらの枠にとらわれることなく、自由な発想で興味あるテーマを見つけ出してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口や産業の集積、将来人口の推計 ○災害・防災（ハザードマップ）、安全・安心（地理的犯罪分析） ○医療・保健・健康（疾病地図）、考古・文化財（古地図） ○エリアマーケティング（商圈人口、店舗密度）など
志願者へのメッセージ	強い関心を持てば、研究を楽しむことができる。

担当教員	小谷 融
テーマ	企業会計と法制度
受講についての必要な予備知識	学部水準の簿記・会計の知識（日本商工会議所簿記検定試験1級程度）
評価の方法	ゼミにおける報告および提出ペーパー
研究指導について	<p>【初年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 企業会計と法制度（会社法、金融商品取引法、法人税法）に関する文献を読む。 今日、企業会計制度は周知のとおり激しい変化の只中にある。企業会計制度の現況を、歴史的、制度比較的または理論的に明らかにする。 ② 初年度後期に研究テーマの設定 <p>【次年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマに関する文献を読む。 ② 中間報告および最終報告
志願者へのメッセージ	

担当教員	清水 一
テーマ	企業価値・企業業績と企業活動の関係に関する実証研究
受講についての必要な予備知識	企業財務および統計学の初歩的な知識があることが望ましい
評価の方法	授業への参加度および修士論文
研究指導について	<p>初年次は文献研究を中心に、研究課題を絞り込み、検証可能な仮説を設定することを目標にします。2年目は、仮説の検証を行い、論文として仕上げることを目標とします。</p> <p>受講生へ</p> <p>企業の何らかの側面（コーポレート・ガバナンス、従業員の処遇システム、経営戦略などなんでもよい）に興味を持っており、さらに、それが企業業績や企業価値とどのように結びついているかということに興味を持つ人を歓迎します。</p>
志願者へのメッセージ	

担当教員	杉田 武志
テーマ	財務会計の領域全般をテーマとしている（財務会計の理論、会計制度、財務分析、国際会計基準の現状、会計の歴史etc.）。
受講についての必要な予備知識	会計学の基礎的知識を備えていることが望ましい。
評価の方法	授業における発表・報告の内容、レポート・論文の構成、内容など、総合的に評価する。＊基本的に欠席が続くと成績評価できないので注意されたい。
研究指導について	<p>M1では、財務会計を中心とした研究を行えるよう、輪読をするとともに、各自で修士論文のテーマ（財務会計領域）を決定する。テーマ決定後は、先行研究のレビューを行い、テーマに関連する制度等の考察を行い、適宜、報告をしてもらう。</p> <p>M2では、各自で決定したテーマに基づき修士論文の作成を行う。</p>
志願者へのメッセージ	

担当教員	苔米地 なつ帆
テーマ	家族構造と社会移動の関連にかんする計量的研究
受講についての必要な予備知識	量的データの分析にかんする基礎的な知識を有することが望ましい。
評価の方法	授業への出席状況や課題の報告、論文等を総合して評価する。
研究指導について	初年次は社会階層研究や家族研究の文献を読み、基礎的な知識を獲得する。2年目は、より発展的な量的データの分析手法について学ぶとともに、各自のテーマに沿って修士論文の執筆を進める。
志願者へのメッセージ	

担当教員	中村 健二
テーマ	企業情報とデータマイニング データの分析と活用に関する研究
受講についての必要な予備知識	コンピュータの基礎的な知識を有することが望ましい。
評価の方法	出席状況、発表、レポート等を総合して評価する。
研究指導について	1年次前期 データマイニング（情報フィルタリング、情報検索、推薦など）の活用事例や最新のICT（iPadやスマートフォン、クラウドサービスなど）のビジネスへの活用事例を調査し、プレゼンテーションにまとめて発表する。 1年次後期 1年次前期の調査結果を踏まえ、既存研究の課題点や活用事例の応用などを考え、自身の取り組む研究テーマを決定する。研究テーマについては、自身の経験や興味がある分野で、今後のスキルアップに役立つものを一緒に考え、相談しながら決定する。 2年次前期 研究テーマに従い研究を推進する。実施方法は、文献整理、成功/失敗事例の比較分析、データ解析、アンケートなど、テーマに即した方法を選択する。 2年次後期 大学院での研究活動の総括として、修士論文を執筆する。
志願者へのメッセージ	

担当教員	難波 孝志
テーマ	沖縄社会の社会学的研究
受講についての必要な予備知識	社会調査士関連科目、「地域社会学」等を受講していることが望ましい。
評価の方法	研究発表および課題を総合的に評価する。
研究指導について	実際に地域社会の現場に入り、質的・量的の両面から社会調査を実施する。調査の現場では最先端の調査技術と鋭い観察力を、データ分析には高度な統計知識とコンピュータ処理技術が要求される。そこで、本ゼミでは、調査のプロとしての社会調査技術、データ処理の技術を並行して修得する。なお、調査に関わる費用および時間は自己負担となるので注意されたい。
志願者へのメッセージ	

担当教員	野村 国彦
テーマ	身体情報（“脳・からだ”）の非線形時系列解析と応用
受講についての必要な予備知識	特に必要ないが、必要に応じて自習する意欲が強く望まれる。 身体情報は時間とともに変化する時系列データとして捉える事が出来るため、時系列データを解析あるいは利用することが出来るようになることが望まれる。その際に「統計学」の知識が必要となる。身体情報からヒトの理を解き明かす、あるいは身体情報を利用したデバイス開発に興味がある方が対象です。
評価の方法	研究発表および課題を総合的に評価する。
研究指導について	身体情報とは“脳・からだ”から測りうる計測データのことであり、この計測データからヒトの理の理解あるいは計測データを入力するような、たとえばBCI（Brain Computer Interface）のようなデバイス開発を目指す。2年次は、自ら設定するテーマを研究し、論文として仕上げることを目指す。
志願者へのメッセージ	

担当教員	野村 友和
テーマ	教育と労働市場に関する実証分析
受講についての必要な予備知識	ミクロ経済学、統計学についての基礎的な知識は必要です。
評価の方法	研究成果（研究発表、修士論文）を評価します。
研究指導について	経済理論や仮説を、統計データを用いて検証し、政策の評価や提言を行うことができるようなスキルの習得を目指します。1年次には主に計量経済学の手法を学び、2年次には修士論文を作成します。
志願者へのメッセージ	

担当教員	藤本 寿良
テーマ	デジタル時代のマーケティング戦略研究。ブランド価値創造。流通システムにおけるオムニチャネル研究。
受講についての必要な予備知識	マーケティングの基本的な知識があれば望ましい。
評価の方法	出席と授業中の課題発表、討論への参加などによって評価する。
研究指導について	1年生の段階では基本的なマーケティングならびに流通に関する文献、論文を読むことによって、基礎的な知識を獲得する。 2年生の段階では、各自のテーマに沿った修士論文（課題研究）の作成について指導する。
志願者へのメッセージ	各自関心を持って参加し、授業内容と経験との間のフィードバックを意識しながら参加してください。

担当教員	細井 真人
テーマ	エージェントベースモデルによる経済シミュレーション
受講についての必要な予備知識	「コンピュータ経済学」、「Javaプログラミング」、「マイクロ経済学」、「ゲーミング」、「シミュレーション」、「コンピュータ統計学」の学部レベルの知識があるか、並行して学習することが望まれる。
評価の方法	発表内容、研究の進展状況、研究結果により評価を行なう。
研究指導について	エージェントベースモデルによる経済シミュレーションを用いて、経済分野の分析や問題の解決を行なう。この分野の入門書として参考にすべき書籍を紹介するので専攻する前に内容を確認すること。授業で用いるテキスト、輪読論文は講義時に示す。 最初は修士論文作成に必要な知識および技術、具体的には、 (1) シミュレーション手法、 (2) 先行研究での代表的なモデル、 (3) プログラミング、 (4) シミュレーションを適用する分野 について受講生による発表を通じて研究指導を行ない、その後、修士論文の指導を行なう。
志願者へのメッセージ	

担当教員	宮武 記章
テーマ	電力会社の会計問題
受講についての必要な予備知識	一般的な教科書レベルの会計の知識があることを前提としている。
評価の方法	授業における発表・課題の内容による。
研究指導について	受講生の関心に応じた分野を中心に学習しつつ、各自で修士論文につながる論文を探して、要約・発表してもらう。それを何度か繰り返すことによって、修士論文のテーマを決定するとともに知識を深めていく。 M2の段階では、修士論文の指導が中心となるが、受講生には先行研究のレビューおよび修士論文の進行状況を随時報告してもらう。
志願者へのメッセージ	

担当教員	山本 公平
テーマ	農業法人の持続的経営に関する実証研究
受講についての必要な予備知識	農業法人経営に高い関心を持ち、「経営戦略論」及び「組織論」を事前に受講していること。
評価の方法	研究の成果を総合的に評価する。
研究指導について	【初年度】文献研究を中心に進めながら、各自で研究テーマを検討する。農業法人への現地調査を実施する。 【次年度】研究テーマに沿った現地調査を実施しながら、研究を進め論文を作成する。
志願者へのメッセージ	

担当教員	米川 雅士
テーマ	地理情報システムの利用拡大と利便性向上に向けた研究
受講についての必要な予備知識	コンピュータ、プログラミングの基礎的な知識を持っている方が望ましい。
評価の方法	講義などの必要な行事への参加状況、修士論文、発表状況などを統合的に判断して評価する。
研究指導について	1年次通年 講義などによりコンピュータに関連する知識と各種目的に合った調査方法などの基礎的な知識を学び、合わせてGIS (Geographic Information System) に関連するシステム開発とオープンデータベースの世界についても必要な知識として習得する。その後、修士論文作成に向け研究テーマを考える。 2年次春学期 1年次に確定した研究テーマについて研究を実施し、その研究成果の発信として学会で発表する。 2年次秋学期 最終的に修士論文作成と発表会を実施する。
志願者へのメッセージ	自分の研究に関心を持ち、積極的に外部などの学会発表への参加をすることを求める。

担当教員	林 怡蓉
テーマ	民主制の規範理論とメディアの実態研究
受講についての必要な予備知識	メディアに関連する理論と実践についての関心が高いこと、規範理論、政治理論、批判的社会理論など読みこなす力があることが望ましい。
評価の方法	授業中の課題発表、討論への参加、また論文内容から判断する。
研究指導について	1年生の段階では、メディアに関わる諸理論（とくに政治規範理論、批判的社会理論）の文献を読み、基礎的な知識を習得する。 2年生の段階では、各自の研究課題に沿った修士論文の作成について指導を行う。
志願者へのメッセージ	各自の研究関心を強く意識しながら、授業に積極的に参加することが求められる。